

射水市文化施設等の再編・整備に関する  
方向性について

令和7年2月

射水市

# 目 次

第一章 はじめに	1
1 検討の背景	
2 対象施設と関連計画等	
3 文化施設等の主な機能	
第二章 芸術文化振興の方向性	3
1 芸術文化振興の方向性	
2 芸術文化振興の担い手と役割	
3 文化施設等の役割	
第三章 文化施設等の概要	5
1 文化施設（新湊中央文化会館、小杉文化ホール、大門総合会館）	
(1) 利用者数	
(2) 利用状況	
(3) 運営状況	
2 大島絵本館	
(1) 入館者数	
(2) 利用状況	
(3) 事業活動の状況	
(4) 運営状況	
3 施設の状況	
(1) 施設の老朽化	
(2) 新たなニーズへの対応	
(3) 施設の耐震性	
(4) 照明のLED化	

第四章 課題の整理 . . . . . 10

- 1 文化施設（新湊中央文化会館、小杉文化ホール、大門総合会館）
- 2 大島絵本館
- 3 施設整備

第五章 文化施設等の再編・整備に関する方向性 . . . . . 12

- 1 各施設の方向性
- 2 施設の休館・廃止
- 3 今後の取組

資料編目次

資料1 文化施設（新湊中央文化会館、小杉文化ホール、大門総合会館）の利用状況	15
資料2 大島絵本館の利用状況	21
資料3 文化施設等における主な修繕工事等の経過	23
資料4 関係団体等の意見概要	25

# 第一章 はじめに

## 1 検討の背景

芸術文化を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化等の社会情勢により、大きく変化を続けています。

本市の人口は、平成 17（2005）年の 94,209 人をピークに、令和 2（2020）年には 90,742 人まで減少しています。老年人口についても、平成 17 年の 21.0%から令和 2 年には 30.7%まで上昇しており、芸術文化活動を中止する団体が増加するなど担い手の不足や高齢化が顕著となっています。

また、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、情報通信技術（ICT）や人口知能（AI）等のデジタル技術が急速に普及し、あらゆる分野において人々の生活の利便性を高めています。一方で情報格差の拡大や対面による交流の減少など様々な影響も指摘されています。芸術文化活動においても、インターネットを活用した発表が普及するなど活動方法等に変化が生じています。

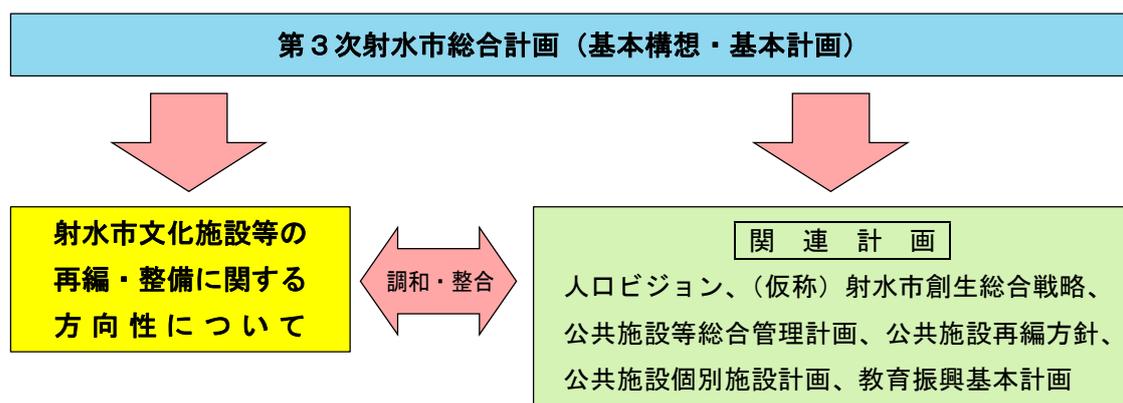
文化施設や美術館など芸術文化振興の拠点施設は、令和元（2019）年度時点で全国で 3,527 施設あり、そのうち平成 12（2000）年以前に設置された施設が約 75%に上っています（2019 年度地域の公立文化施設実態調査）。本市の拠点施設においても、全て平成 12 年以前の設置であり、施設の老朽化への対応が課題となっています。

## 2 対象施設と関連計画等

今回対象とする施設は、ホールを有する文化施設（新湊中央文化会館、小杉文化ホール、大門総合会館）と大島絵本館です。これら文化施設等は、これまでも適切な維持管理に努めてきましたが、いずれも建設から 30 年以上が経過しており、空調設備や舞台設備をはじめとした施設の老朽化が進行しています。

市の最上位計画である『射水市総合計画』では、「地域の文化活動と歴史文化の継承を支援する」という基本目標に基づき、「芸術文化活動の場の提供」を主要施策の一つに掲げています。本報告は、本市の芸術文化振興の方向性及び文化施設等の利用状況による芸術文化活動の傾向、施設や設備の状況等を踏まえ、文化施設等の再編・整備に関しての方向性を整理したものです。

なお、次世代に過度の負担を強いることなく、将来の市の姿を見据えることも必要であることから、『射水市公共施設再編方針』等とも調和・整合を図っています。



### 3 文化施設等の主な機能

文化施設等は、芸術文化の鑑賞のほか、市民の創造活動や成果発表等が行われる施設であり、多様な機能を有しています。

新湊中央文化会館は、様々な舞台芸術に対応できる舞台規模と舞台機構を備えた多目的ホール等を備えています。また、市内で最も大きい展示室や数寄屋造りの本格茶室など様々な附属施設を有し、図書館と複合しています。

小杉文化ホールは、音響性能に優れた音楽専用ホール等を備え、市民の発表活動に適した規模の施設であり、少人数での創造活動に利用できる練習室も有しています。

大門総合会館は、講演会等に適したコンパクトなホールのほか、会議室や調理実習室等の附属施設を有しています。また、図書館や金融機関等と複合しており、様々な目的で市民が集います。

大島絵本館は、絵本をテーマにした美術館であり、絵本文化の振興と子どもたちの豊かな心や優れた感性を育むことを中心とした事業活動を行っています。子どもたちが自由に活動できる開放的で活力ある空間が特徴のデザイン性に優れた建物には、ライブラリーやギャラリーのほか、小規模な表現活動の発表や鑑賞が可能なシアターホールを備えています。

(令和7年1月31日現在)

名称	新湊中央文化会館	小杉文化ホール	大門総合会館	大島絵本館
所在地	三日曾根3-23	戸破1500	大門67	鳥取50
愛称	高周波文化ホール	アイザック小杉文化ホール		
建設年度	昭和56年(1981年)	平成5年(1993年)	昭和62年(1987年)	平成6年(1994年)
経過年数	43年	31年	37年	30年
建築面積	5,833㎡	3,087㎡	1,557㎡	1,771㎡
延床面積	12,437㎡	5,714㎡	6,161㎡	2,405㎡
構造	RC3F 地下1F	RC4F 地下1F	SRC6F 地下1F	RC2F 地下1F
敷地面積	17,304㎡	16,850㎡	4,551㎡	4,291㎡
駐車台数	230台	240台	160台	35台
大ホール	1,220席(舞台306㎡)	818席(舞台130㎡)		
小ホール	392席(舞台132㎡)	240席(舞台68㎡)	342席(舞台75㎡)	208席(舞台58㎡)
附属施設	練習室(3室) 研修室・会議室(7室) 展示室(311㎡) 茶室 実習室	練習室(2室) 研修室(3室) 展示コーナー(47㎡)	軽運動室(1室) 会議室(12室) 展示室(104㎡) 茶道室 多目的ホール(304㎡) 調理実習室等	ライブラリー ワークショップ 展示室(40㎡) ギャラリー イベントホール(160㎡) カフェ
複合施設・民間施設	新湊図書館		正力図書館 正力・小林記念館 金融機関店舗 国際交流協会事務所 障害児通所支援事業所・フリースクール 喫茶店	
ホールの特徴	・大ホールは様々なジャンルに対応する舞台機構を備えた多目的ホール	・大ホール(ひびきホール)は残響時間を計算して設計された音楽専用ホール	・ホール(大ホール)の規模は他施設の小ホール相当	・ホール(シアターホール)の規模は他施設の小ホール相当
その他	・茶室は数寄屋造りの本格茶室 ・市民ホール天井に大伴二三彌制作の大型ステンドグラス(長さ27m、幅3m) ・中央公民館とも複合していたことから、生涯学習機能(茶室・展示室・実習室)を備える	・練習室は、ピアノやバンド機材を設置	・市と金融機関が建物を区分所有 ・民間施設も入居する複合施設 ・大門コミュニティセンターとも複合していたことから、生涯学習機能(茶室・展示室・調理実習室・視聴覚室等)を備える	・建築家の長谷川逸子氏設計の施設であり、建築物としての評価が高い ・「第7回(2000年)公共建築賞(建設大臣表彰)生活施設部門」受賞 ・前庭部には絵本ふれあいパーク(7,888㎡)

## 第二章 芸術文化振興の方向性

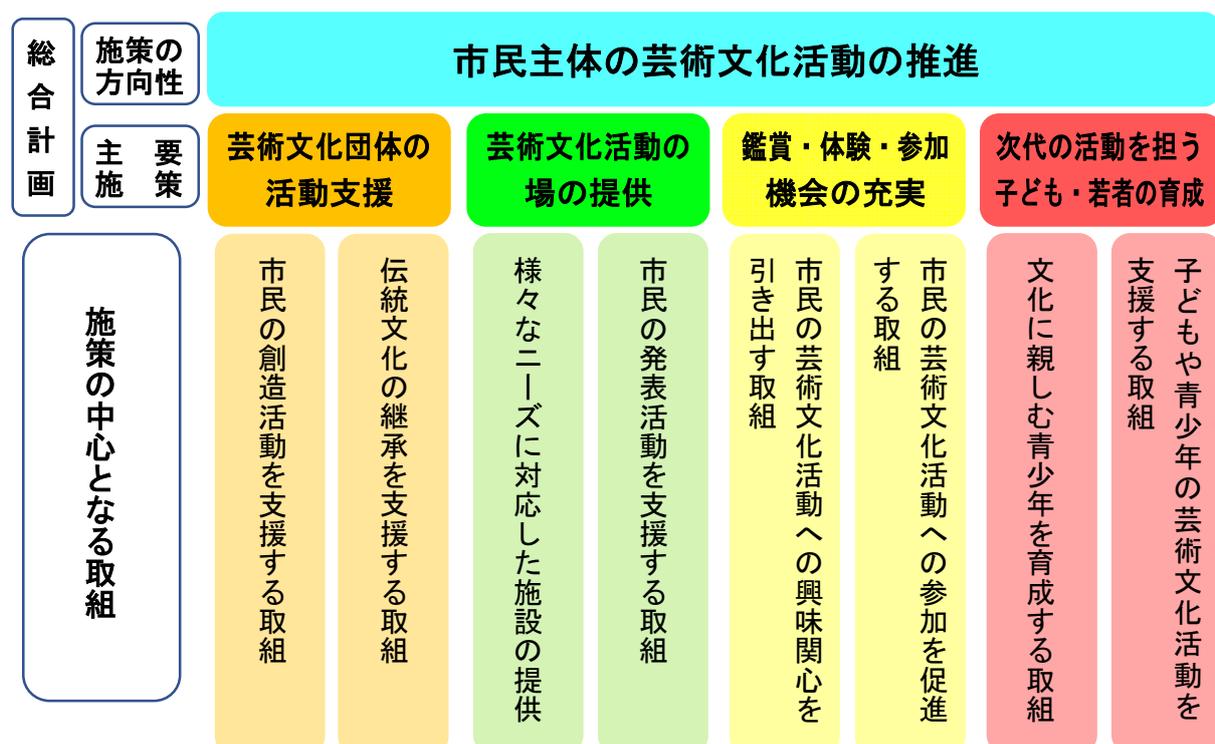
### 1 芸術文化振興の方向性

第3次射水市総合計画では、外部有識者から意見を求めた「射水市文化振興・文化施設在り方検討会」等の意見を踏まえ、市民が心豊かに潤いのある生活を送るための施策の一つとして、基本目標「地域の文化活動と歴史文化の継承を支援する」を掲げています。施策の方向性については、市民の芸術文化活動への自主的な参加と主体的に活動できる環境の提供による「市民主体の芸術文化活動の推進」とし、4つの主要施策を推進することとしています。

年 度	これまでの検討の内容
令和3年度	射水市文化振興・文化施設在り方検討会の開催
令和4年度	文化施設等の利用状況の調査 第3次射水市総合計画の策定（基本構想、基本計画、前期実施計画）
令和3年度～ 令和5年度	射水市芸術文化協会、射水市文化振興財団、射水市絵本文化振興財団との意見交換、民間事業者への対話型市場調査等

これまでの検討において、芸術文化振興の課題は、①芸術文化に関する関心の低下、②芸術文化団体の高齢化、③芸術文化活動の多様化、④子どもの体験機会の充実、⑤地域の伝統文化の後継者不足等と整理してきました。

これら課題の解決には、受け継がれてきた伝統を伝えながらも、時代や社会情勢の変化に対応し、常に新しいニーズや視点を捉えた取組が必要であると考えられます。全ての市民に情報や機会を届け、様々な人々や団体、活動、地域、分野等と連携しながら、地域の芸術文化活動の推進に努めることが重要であり、これらを踏まえた以下の取組を中心に、総合計画に掲げる芸術文化施策を推進していきます。



## 2 芸術文化振興の担い手と役割

芸術文化振興においては、市民と市、射水市文化振興財団、射水市絵本文化振興財団、射水市芸術文化協会をはじめとした関係団体等が互いに連携し、次に掲げるそれぞれの役割を主体的に果たすことが重要です。

### ① 市民

自主的かつ主体的に活動し、一人ひとりが主役となって芸術文化の創造・発展や次世代への継承に努めることを期待します。

### ② 芸術文化協会等の関係団体

芸術文化振興の取りまとめ役となって、市民に発表や体験、芸術文化を楽しむ機会を企画・提供し、また次世代の担い手の育成を期待します。

### ③ 文化振興財団・絵本文化振興財団

芸術文化振興を目的に設置された専門組織であり、専門性の高い業務能力や幅広いネットワークを活かして市とともに芸術文化振興事業に取り組み、市民活動の普及育成を期待します。

### ④ 市

市民や様々な団体との連携や活動支援をはじめとした施策を展開し、市民が芸術文化に親しむことのできる環境を整備します。

## 3 文化施設等の役割

文化施設等は、市民が心豊かに潤いのある生活を送るための拠点施設です。市民の芸術文化活動の場として、市民が芸術文化を創造し、その活動の成果を発表するとともに、生の演奏や舞台の発表・鑑賞によって感動を共有するなど、交流する人々のつながりを生みだしています。

また、市民主体の芸術文化活動の推進を目指す本市の芸術文化施策を実現する場でもあり、市民の興味関心を引き出す幅広い鑑賞・体験機会の提供や芸術文化活動の新しい参加者や活動団体の育成、学校や他分野の機関・施設との連携など市全域への芸術文化の普及、芸術文化情報の発信等の役割を担うものと考えています。

### 第三章 文化施設等の概要

#### 1 文化施設（新湊中央文化会館、小杉文化ホール、大門総合会館）

##### （1）利用者数

文化施設の利用者数は、3施設合計で22～25万人の範囲で推移していましたが、令和2年度のコロナ禍時には6割超の減となりました。その後は徐々に回復していますが、令和5（2023）年度時点でもコロナ禍前の7割程度に留まっています。今後は、人口減少や芸術文化活動の参加者の高齢化、周辺自治体の施設整備等の影響を踏まえながら動向を注視していく必要があります。



\* 新湊中央文化会館については中央公民館の利用者数を含む（H26～R1）

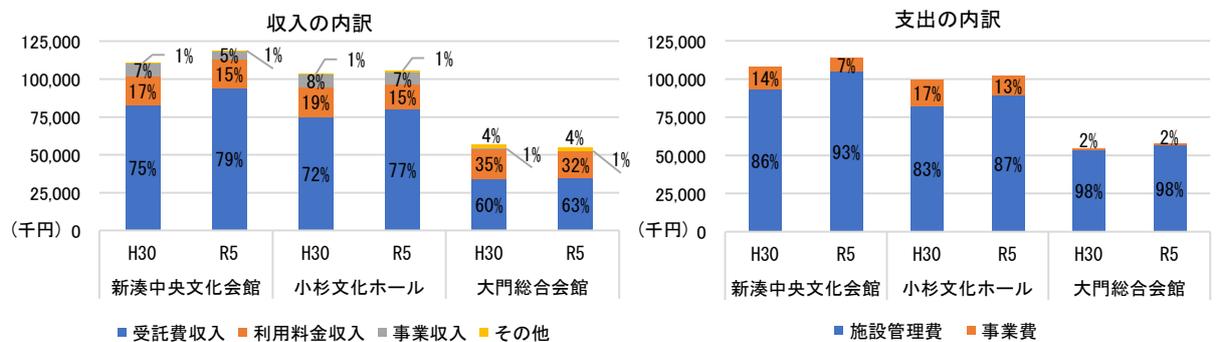
##### （2）利用状況

文化施設の利用状況については、コロナ禍前の平成30（2018）年度とコロナ禍後の令和5年度の利用データ（資料編）により、次のとおり整理しました。

- ① 文化施設は市民だけではなく、富山市や高岡市の団体からも多く利用されていますが、利用団体数は減少しています。
- ② 文化施設の利用回数は、民間の事業活動を中心に減少しています。
- ③ ホールの稼働率は、全体に低下傾向となっています。利用目的は芸術文化団体の発表会や練習会が中心であり、コロナ禍後はさらにその傾向が強まっています。
- ④ ホールで行われる公演や発表会等の催し物は減少しており、また催し物一回あたりの入場者数も少なくなっています。
- ⑤ 附属施設（ホール以外の施設）は、多目的に活用できる部屋が多く利用される傾向であり、用途が限られる部屋の利用は低い状況が続いています。練習室（軽運動室）や研修室、会議室の利用は、芸術文化活動の減少やオンライン会議の普及、他の公共施設との機能重複のため、減少しています。
- ⑥ 新湊中央文化会館と小杉文化ホールは、利用の傾向から、ホールを中心に市民の芸術文化活動の発表会や練習会の利用が中心の市民ホールといえます。
- ⑦ 大門総合会館は、他2施設に比べ、会議室を中心に市民の多様な交流に利用される施設といえます。

### (3) 運営状況

文化施設の管理運営は、指定管理者制度により行っています。コロナ禍前の平成30年度とコロナ禍後の令和5年度を比較すると、収入では、いずれの施設も「受託費収入」（指定管理料、指定管理者支援金等）の割合が増加しています。支出では、新湊中央文化会館と令和5年度における小杉文化ホールの支出合計が1億円を超えています。なお令和5年度は、光熱費等の高騰により「施設管理費」の割合が増加し、「事業費」が減少しています。



[収入額]

施設名	年度	受託費収入	利用料金	事業収入	その他	収入合計
新湊中央文化会館	H30	82,554	19,341	8,230	614	110,739
	R5	94,289	18,614	5,452	584	118,939
小杉文化ホール	H30	75,141	19,672	8,036	553	103,402
	R5	80,292	16,195	7,660	1,401	105,548
大門総合会館	H30	33,868	19,969	471	2,177	56,485
	R5	34,732	17,667	253	2,149	54,801

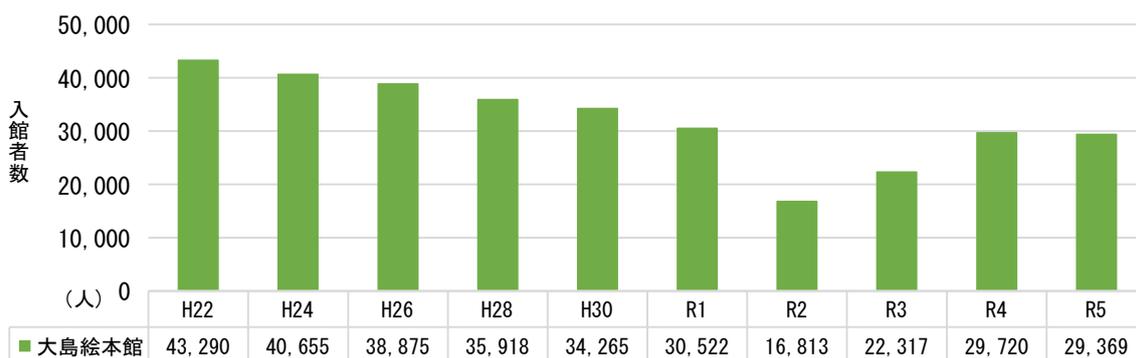
[支出額]

年度	施設管理費	事業費	合計
H30	93,340	14,585	107,925
R5	104,909	8,504	113,413
H30	82,317	17,314	99,631
R5	89,276	12,992	102,268
H30	53,736	888	54,624
R5	56,782	971	57,753

## 2 大島絵本館

### (1) 入館者数

大島絵本館の入館者数は、平成20年代前半までは4万人を超えていましたが、人口減少や少子化等の影響を受け、徐々に減少しています。令和2年度のコロナ禍では半減となりましたが、令和4年度にはコロナ禍前の状況近くまで回復しています。



### (2) 利用状況

大島絵本館の利用状況については、コロナ禍前の平成30年度とコロナ禍後の令和5年度の利用データ（資料編）により、次のとおり整理しました。

- ① 大島絵本館は、個人利用が全体の8割を占めていますが、そのうちの当日券を購入する一般利用者が減少しています。また、団体利用は市外の幼稚園・保育園が中心です。

- ② 大人と子どもの入館者数は概ね均衡しています。また大人の入館者の割合は、20～30代、40～50代、60歳以上がほぼ同じで、全体に女性の割合が高くなっています。
- ③ 大島絵本館は、年間に何回も訪れる方が多いものの、その多くは市外からの来館です。
- ④ 大島絵本館の収入の内訳は、入館料より事業収入が高い傾向にあります。

### (3) 事業活動の状況

大島絵本館では、絵本を「読む」「聞く」、絵本を「作る」、表現活動を「鑑賞」「体験」することのできる施設機能を活用し、幼児・児童の読解力や想像力、共感力等を育成する様々な絵本文化事業を展開しています。

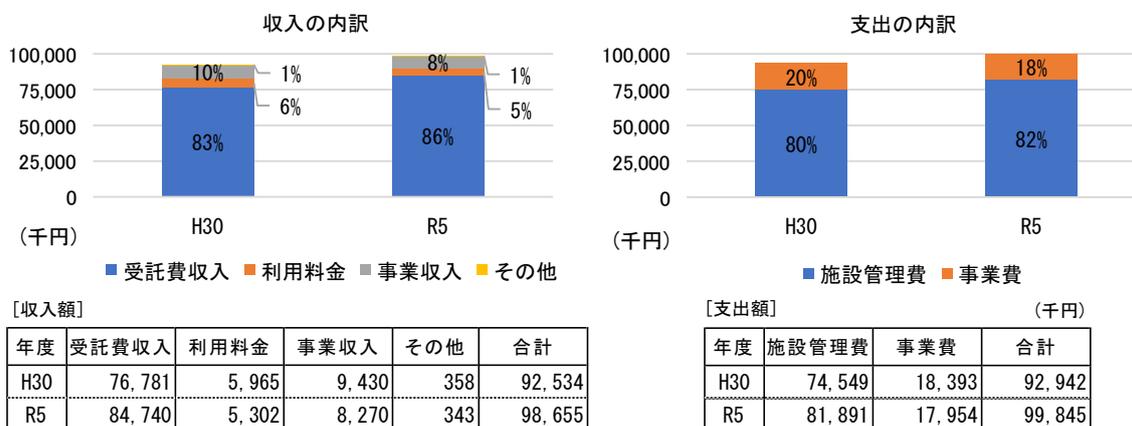
これら事業の企画・運営のため、施設には絵本専門士、図書館司書、学芸員、小学校教員等の子どもの読書活動や児童教育に対応した資格者を配置しています。

また、「全国絵本ミュージアム会議」（平成28（2016）年）、「絵本サミット」（令和5（2023）年）の開催や「全国絵本ミュージアム協議会」（平成29（2017）年10月設立）への参加など、積極的に全国の絵本専門館と交流し、全国有数の絵本文化振興の拠点として知られています。

主な企画事業	令和5年度の事業内容
おおしま国際手づくり絵本コンクール	応募総数 一般の部 215点 ジュニアの部 725点
おおしま絵本のつどい	こどもまつり、絵本館まつり、ジャンボかるた大会 音楽・人形劇等の上演、講演会、表現活動の発表会等
創作教室	登録家族 113組（年6回開催）
出前講座	開催数 35回
その他	絵本出版、広報誌発行、七夕展示・クリスマスツリー展示等

### (4) 運営状況

大島絵本館の管理運営は、指定管理者制度により行っています。平成30年度と令和5年度を比較すると、収入では、「受託費収入」（指定管理料、指定管理者支援金等）の割合が増加しています。支出では、光熱費等の高騰により「施設管理費」の割合が増加しており、令和5年度では合計額が約1億円になっています。



### 3 施設の状況

#### (1) 施設の老朽化

文化施設等については、必要な修繕や設備の更新に努めながら維持管理を行ってきましたが、新湊中央文化会館が令和 13 (2031) 年度に建設後 50 年を迎えるなど、いずれも建設から 30 年以上が経過し、躯体・設備の老朽化が進行しています。

鉄筋コンクリートで造られている躯体は、経年により構造耐力が低下することがあり、空調設備や舞台設備（音響設備、照明設備、舞台機構）等を構成する機器の多くも、10～15 年で更新時期を迎えます。

突発的な事故が起きないように、定期的に設備機器等の保守点検を実施し、早期の異常察知と速やかな異常箇所の修繕や更新を行う予防保全に努めていますが、天井内を巡る空調設備の冷温水配管等の劣化状況は把握が困難です。

(令和 7 年 1 月 31 日現在)

名称	新湊中央文化会館	小杉文化ホール	大門総合会館	大島絵本館
建設年度	昭和56年(1981年)	平成5年(1993年)	昭和62年(1987年)	平成6年(1994年)
経過年数	43年	31年	37年	30年
工事費	3,263百万円	4,120百万円	1,648百万円	1,614百万円
大規模改修年	平成20年(2008年)			
経過年数	16年			
工事費	1,456百万円			

#### (2) 新たなニーズへの対応

施設には、情報化やユニバーサルデザインの普及、地球温暖化対策など時代の変化に伴って求められる社会的ニーズのほか、芸術文化活動における表現の多様化や高度化に伴う市民ニーズへの対応も重要な課題です。

これまで、文化施設等では空調の個別化やホールの音響設備のデジタル化、オンライン配信が可能となるインターネット環境の整備など施設機能の向上に努めてきました。

しかし、施設全体のユニバーサルデザイン化や省エネルギー化等に対応するための改修には、多額の費用を要することが見込まれます。

また大島絵本館については、出入口までのアプローチが長いことやエレベーターが未設置であることなど、幼児から高齢者まで幅広い世代が利用する施設として、配慮が必要と感じられる箇所も見受けられます。

#### (3) 施設の耐震性

文化施設等は、新湊中央文化会館を除き、昭和 56 (1981) 年の建築基準法改正による新耐震基準に適合しています。新湊中央文化会館は同法改正前に着工された施設ですが、富山県において「建築物の耐震改修の促進に関する法律」に基づく耐震診断が平成 28 年度に実施されており、現行の耐震基準に相当する（震度 6 強～7 の地震で倒壊・崩壊する危険性が低い）と評価されています。しかし、経年による構造耐力の低下が耐震性の低下を招くことがあるため、継続的に躯体の安全性の把握に努める必要があります。

なお、新湊中央文化会館、小杉文化ホール、大門総合会館のホールの客席等の天井は吊り天井であり、地震発生時に脱落する可能性があります。平成 26 (2014) 年の建築基準法施行

令の改正で「特定天井」に該当した範囲も含まれることから、現行法に適合しない「既存不適格建築物」とみなされています。今後、大規模修繕等の工事を行う場合は、これら天井の耐震化を講じる必要があります。

#### （４）照明のLED化

令和5年11月の「水銀に関する水俣条約 第5回締約国会議」において、令和10（2028）年1月から全ての一般照明用の蛍光灯の製造と輸出入が禁止されることとなりました。

文化施設等においても研修室をはじめとした附属施設等に蛍光灯を使用しており、LED化の対応が必要になっています。

ホール内の照明についても、既存の照明設備に対応する電球の生産終了やLED照明設備の実用化が進んでおり、施設の使用を続ける場合は、ホール内の照明設備の更新を検討する必要があります。

なお、舞台照明の全てをLED照明に更新する際は、既存の照明と明るさや光の広がり方などが異なるため、器具の設置位置等の検討が必要です。また客席照明を更新する際は、大島絵本館を除き天井の耐震化の検討が必要になります。これらのことから、ホール内の照明設備の更新は、ホールの音響設計の再検討も含む大規模修繕となる可能性があります。

## 第四章 課題の整理

### 1 文化施設（新湊中央文化会館、小杉文化ホール、大門総合会館）

新湊中央文化会館と小杉文化ホールは、市民の自主的な活動や新しい参加者の育成を図るため、市民の芸術文化活動の拠点として、重要な役割を担っているものと考えています。また大門総合会館は、会議室の利用を中心とした市民の多様な集いの場としての役割を担っているものと考えています。

これら文化施設の利用者数は、芸術文化活動団体の減少や活動参加者の高齢化等によって減少傾向となっており、今後の芸術文化の展開にも影響があると考えられます。特に練習室（軽運動室）や研修室、会議室等の附属施設については、オンライン会議の普及や近隣の公共施設との機能重複等もあり、全体に低調な利用状況となっています。

また、毎年度の管理運営費は多額であり、近年は光熱費や人件費等の高騰の影響でさらに増加傾向にあります。利用者サービスの向上や施設活用の促進による収入の確保、効率的な施設運営による管理経費の縮減に努める必要があります。

### 2 大島絵本館

大島絵本館は、全国でも有数の絵本文化振興の拠点です。開館以来、子どもたちの豊かな感情を育てる事業活動を展開しており、施設では様々な体験を楽しむことができるサービスを提供しています。入館者数は少子化等の影響により減少傾向にあるものの、絵本を通じた子どもたちの情操教育に取り組むことが重要であることに変わりはないと考えています。

また文化施設と同様、毎年度の管理運営費は多額であることから、効率的な運営による管理経費の縮減のほか、入館者数の増加等により収入の確保を図る必要があります。

入館者数の増加に向けては、施設の魅力を高め、利用者の裾野を広げる取組が重要であることから、デジタル技術の活用や様々な世代の利用を促す企画の実施など、施設機能や事業の充実、広報の強化等を検討する必要があります。

### 3 施設整備

文化施設等は、本市の芸術文化活動や交流活動等の拠点であるほか、近年の集中豪雨や令和6年能登半島地震では、近隣住民の緊急避難場所としても活用されており、安全安心な環境整備に努める必要があります。

いずれの施設も老朽化が進行しており、これまでも空調設備や舞台設備等を中心に修繕や更新等の維持管理に努めてきましたが、今後は自動火災報知設備等の防災設備やエレベーター設備、屋上防水など、比較的更新期間の長い設備や躯体の老朽化への対応も加わってきます。射水市公共施設個別施設計画では、天井の耐震化やホール照明のLED化を除き、施設機能を維持するため令和6（2024）年度から令和15（2033）年度までの10年間に必要となる修繕費を文化施設3館合計で1,013百万円、大島絵本館で162百万円と見込んでいます。

そのほかにも、天井の耐震化や照明のLED化のほか、耐震性の低下や劣化状況の把握が困難な空調配管等への対応、多様な人々が安全で快適に利用できる環境の整備、市民ニーズの変化への対応など様々な課題があります。

これらの課題に対しては、施設全体の機能回復と向上を図る大規模修繕工事の実施が一つ

の解決方法といえますが、全面的に実施する場合は新築時の事業費を超える可能性があり、全ての施設で実施することは困難です。

また、新しく文化施設等を整備する場合においても多額の事業費が見込まれ、整備内容によっては用地整備等に関する費用も発生します。

いずれの場合でも、近年の資材費や労務単価の上昇、人材不足等の影響による物価高騰が著しく、現時点では想定される事業費やスケジュールを示すことは困難な状況です。

なお、大島絵本館については、賑やかで活力ある屋内の空間を含め、絵本文化の振興を意図した設計により、第7回公共建築賞（生活施設部門）建設大臣表彰を受賞するなど建築物として高い評価を得ており、唯一性の高い意匠や施設機能に大きな変更を加える場合は慎重な検討が必要です。

## 第五章 文化施設等の再編・整備に関する方向性

### 1 各施設の方向性

- ① 新湊中央文化会館及び小杉文化ホールは、1か所への集約に取り組み、令和13(2031)年度を目途に施設整備の方向性等をまとめます。

新湊中央文化会館及び小杉文化ホールは、市全域を対象に芸術文化を振興する市民ホールとして重要な役割を担っていますが、施設の老朽化は避けては通れない課題であり、両施設とも維持し続けることは困難です。引き続き芸術文化振興の取組を進めながら、1か所へ集約するための施設整備の方向性（新設または既存施設の大規模修繕）について、望ましい機能・規模の検討も含め、新湊中央文化会館が建設後50年を迎える令和13年度を目途にまとめます。

- ② 新湊中央文化会館及び小杉文化ホールの既存施設は、施設機能や安全性が確保できる間または集約後の施設が開館するまでは、芸術文化振興の拠点として活用を図ります。

新湊中央文化会館及び小杉文化ホールの既存施設は、市民の芸術文化活動が中断しないよう、継続的に施設・設備の修繕等を行い、施設機能や安全性が確保できる間または集約後の施設が開館するまでは、それぞれの特性を生かした芸術文化振興の拠点として活用を図ります。

- ③ 大門総合会館は、市民の多様な集いの場として、施設の効果的な活用や効率的な運営に努めながら、民間事業者の参入等を検討します。

大門総合会館は、ホールを中心とする市民ホールと異なり、会議室の利用を中心とする市民の多様な集いの場として活用されています。大ホールや会議室等の効果的な活用や効率的な運営に努めながら、民間事業者の参入等を検討します。

- ④ 大島絵本館は、本市の絵本文化の振興と発展に向け、事業展開や施設の在り方等について検討を続けます。

大島絵本館は、幼児・児童の健全育成や市民の創造意欲を刺激する絵本文化振興の拠点です。本市の絵本文化の振興と発展に向け、新たな事業展開や事業体制、利便性向上を含めた施設の在り方について検討を続けます。

### 2 施設の休館・廃止

射水市公共施設個別施設計画の計画年度にかかわらず、定期点検の結果等も踏まえ、緊急度や必要性を考慮して早期の対応に努めることが重要ですが、次の場合は施設の休館・廃止も必要となる場合があります。

- ① コンクリートの劣化や鉄筋の腐食等により、躯体の構造耐力や耐震性が不足すると判断された場合
- ② 広い範囲で外壁・天井の落下や天井からの水漏れが生じるなど、利用者に危険が及ぶ可能性が高いと判断された場合
- ③ 天井の耐震化やホール照明のLED化等の大規模修繕を実施しなければ施設の使用を続けることが困難となる場合
- ④ 施設再編の検討の進展により、新たな施設や他施設に機能を移す場合

### 3 今後の取組

文化施設等は、本市の芸術文化振興や賑わい創出の拠点として、市民の芸術文化活動や交流の場、本市の芸術文化施策を実現する場などの役割を有しています。

芸術文化の振興については、総合計画に掲げる「市民主体の芸術文化活動の推進」を目指し、継続的に芸術文化施策の展開と内容の充実を図るとともに、施設利用者の増加に向けた取組に努めることが重要と考えています。

一方で、施設の老朽化に伴って修繕箇所が増加し、今後は多額の修繕費用が見込まれることから、新湊中央文化会館と小杉文化ホールの集約の検討については、目途とした令和13年度までの期間内に、できるだけ速やかに施設整備の方向性や望ましい施設の機能・規模を示すことができるよう、引き続き取り組みます。

なお、施設整備を計画するにあたっては、人口減少や財源確保等の課題に向き合いながら、周辺自治体における類似施設の状況等も踏まえ、公共施設の複合化や施設の跡地活用、まちづくりの観点も含めて検討していくことが重要と考えています。

いずれにしても、市民に愛され誇りとされる施設を目指し、市民や利用者の皆さんからの意見に耳を傾け、また民間活力の活用の検討も含めた幅広い視点で取り組んでいきます。

# 資 料 編

# 資料 1 文化施設（新湊中央文化会館、小杉文化ホール、大門総合会館）の利用状況

## 1 利用状況の傾向

コロナ禍前の平成 30 年度（7,365 件）とコロナ禍後の令和 5 年度（5,510 件）の文化施設の利用データから、各施設の利用状況の傾向を確認しました。

### ① 利用団体の所在地

いずれの施設も市内を拠点とする団体の利用が最も多いですが、富山市と高岡市の団体も一定数見られます。

特に令和 5 年度の小杉文化ホールでは、市内団体の利用団体数を富山市・高岡市の利用団体数が上回っています。

大門総合会館における平成 30 年度の利用団体数は、他 2 施設に比べ突出していますが、令和 5 年度は大きく減少しています。

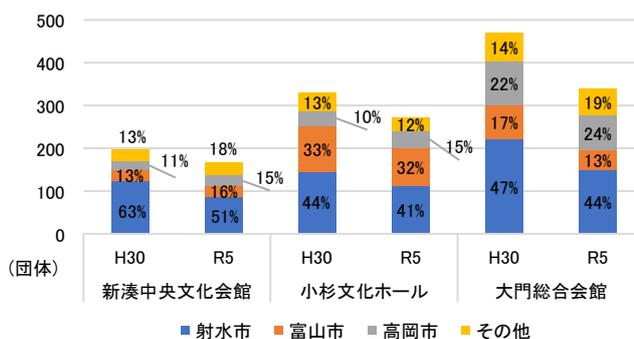


図 1 利用団体の所在地

### ② 利用料金収入の内訳

新湊中央文化会館・小杉文化ホールの利用料金収入は、約 70%が大小ホールの利用によるものです。大門総合会館は、90%以上が「その他」（附属施設）の利用による収入です。

令和 5 年度は、いずれの施設も平成 30 年度に対し、1～2 割程度の減収となっています。

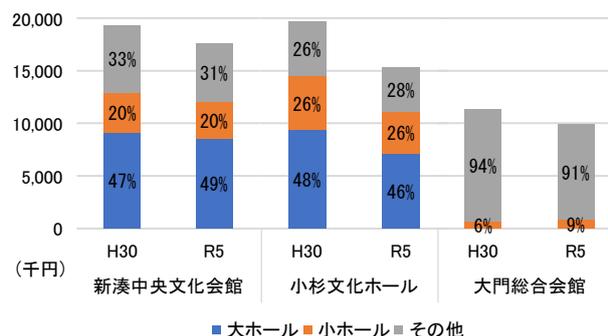


図 2 文化施設の利用料金収入の内訳

### ③ 施設の利用回数

平成 30 年度と比較した令和 5 年度の利用回数は、いずれの施設も減少しており、特に小杉文化ホールは 4 割弱の減少となっています。利用回数は、「研修室」（会議室）の利用が多い大門総合会館が突出していますが、その減少幅も最大です。

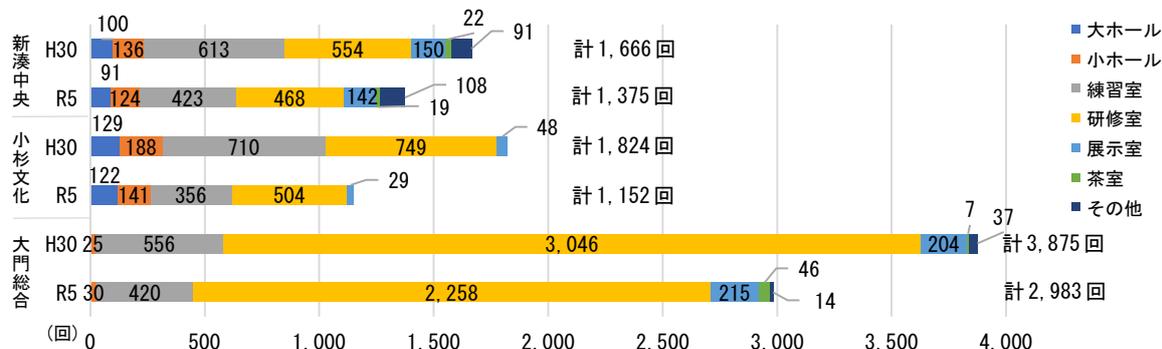


図 3 施設の利用回数

\* 楽屋等は除く

#### ④ 施設の利用目的

施設の利用目的は、新湊中央文化会館と小杉文化ホールでは「芸術文化活動」の利用が多く、過半数を占めます。大門総合会館は「民間の事業活動」が活発な施設ですが、令和5年度は民間の利用が大きく減少しており、『③ 施設の利用回数』における「研修室」（会議室）の利用回数減少の大きな要因となっています。

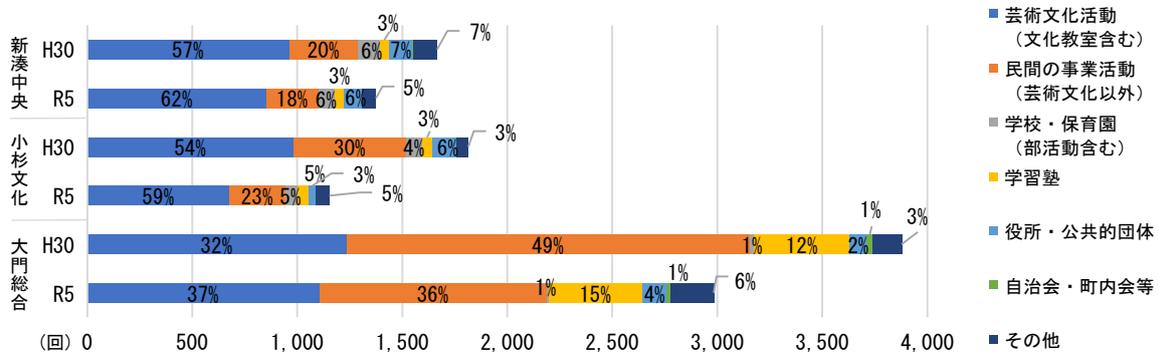


図4 施設の利用目的

#### ⑤ ホールの稼働率

ホール稼働率は、本検討において独自に整理したもので、ホール利用可能日数に対する利用回数により算出しています。

令和5年度の新湊中央文化会館と小杉文化ホールの稼働率は、平成30年度に対し、いずれも減少しています。「大ホール、ひびきホール」では、両年度とも催し物の多くは週休日や祝日に開催され、利用申込が重複しやすい状況が続いています。小ホールでは、特に小杉文化ホール「まどかホール」の減少幅が大きいです。大門総合会館の大ホール（規模は他施設の小ホールに相当）は、特に利用頻度が低い状態が続いています。

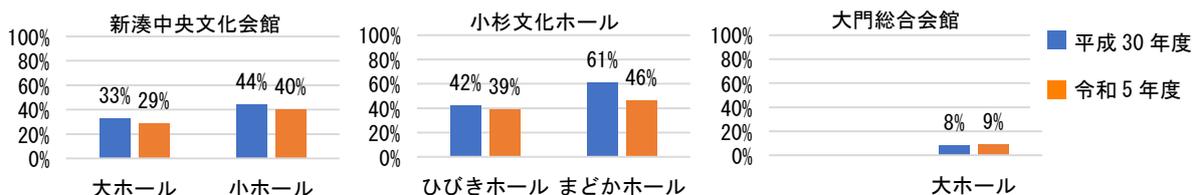


図5 ホール稼働率

#### ⑥ 大ホールの利用目的

新湊中央文化会館大ホールは民間事業者による商業的な「公演」の多いホールですが、令和5年度は大きく減少し、「その他催事」（民間事業者等の研修会等）が増加しました。また、両年度とも中学校の吹奏楽部の「練習会」が多くあります。

小杉文化ホールひびきホールは、「その他催事」の割合が減少し、「公演」と芸術文化団体の「発表会」の割合が増加しています。

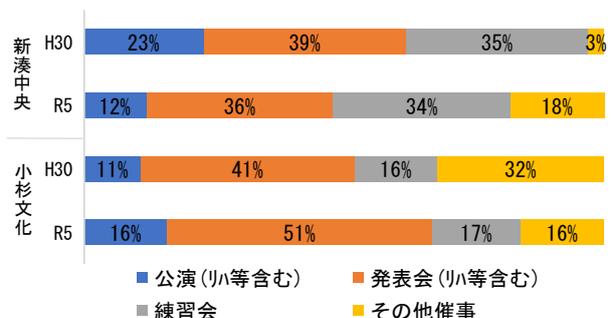


図6 大ホールの利用目的

⑦ 大ホールにおける催し物の入場者数

観客席に観客を入れる発表会や研修会等の利用（本番利用、準備やリハーサル等を除く）における入場者数の状況です。

新湊中央文化会館大ホールは、商業的な公演の開催により、「1,000人～」以上の入場が多い傾向にありましたが、令和5年度は減少し、「300～499人」の催し物が増加しました。

小杉文化ホールひびきホールは、団体の発表が多いため、平成30年度は「300～499人」、令和5年度は「～299人」と比較的少ない入場者数が多い傾向となっています。なお、平成30年度には「500～699人」の比較的大きな催し物も一定程度見られましたが、令和5年度は大きく減少しています。

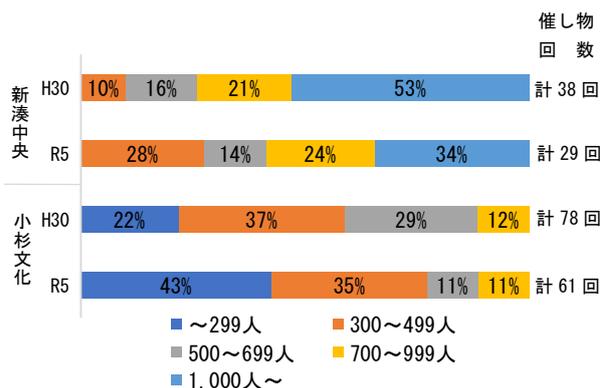


図7 大ホールにおける催し物の入場者数

⑧ 小ホールの利用目的

小ホールは、活動団体の「発表会」や日常的な「練習会」、「その他催事」（民間事業者や団体の研修会等）によく利用されます。

平成30年度に対し、令和5年度は、いずれの施設も「その他催事」の割合が減少しており、新湊中央文化会館では稼働率低下の要因となっています。小杉文化ホールでは音楽教室を中心に「発表会」も減少しています。

大門総合会館でも「その他催事」（民間事業者の研修会等）が減少傾向にあります。

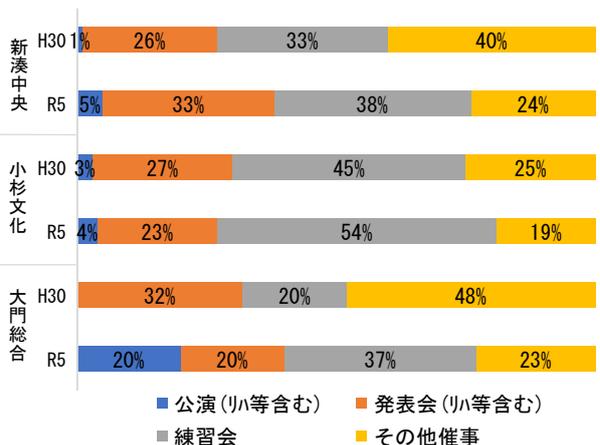


図8 小ホールの利用目的

⑨ 小ホールにおける催し物の入場者数

新湊中央文化会館小ホールは、平成30年度に多かった「300人～」、「200～299人」の催し物が令和5年度には減少し、「100～199人」、「～99人」の催し物が増加しました。

小杉文化ホールまどかホールでも、「200～299人」の催し物が大きく減少し、「100～199人」の割合が増加しています。

コロナ禍以降は、密を避けるため収容人数に余裕のある会場を選択されており、これまで小ホールを利用されていた規模の催し物も、大ホールを利用される傾向にあります。

大門総合会館も同様に、入場者数が少ない催し物の割合が増加しています。

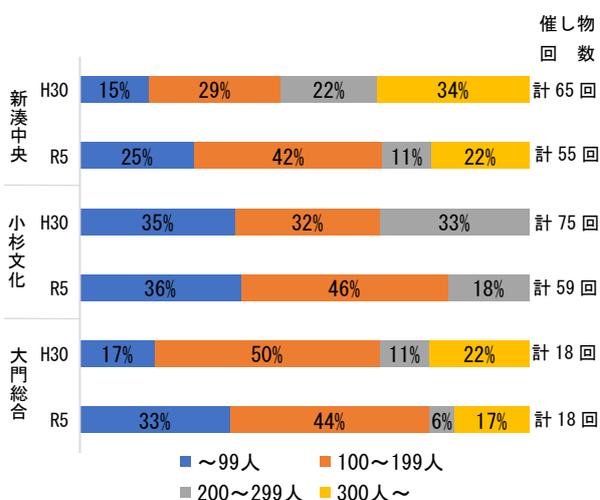


図9 小ホールにおける催し物の入場者数

⑩ 附属施設（ホール以外の施設）の稼働率

附属施設の稼働率は、本検討において独自に整理したもので、1日を3時間ごとに午前・午後（昼間）・午後（夕方）・夜間の時間帯に分け、その利用回数により算出しています。

いずれの施設も平成30年度に対し、令和5年度は「練習室、軽運動室」の稼働率が減少しています。また特定の用途で利用されている施設より、多目的に利用できる施設の稼働率が高くなる傾向にあるといえます。

新湊中央文化会館では、「練習室」以外の稼働率は微増傾向となっておりますが、「研修室、会議室」や「茶室」等の稼働は低い状況が続いています。

小杉文化ホールでは、「練習室」のほか「研修室」の稼働も大きく低下しています。オンライン会議の普及や狭い部屋での密を避ける傾向、近隣の公共施設との機能の重複など、様々な要因が考えられます。

大門総合会館においても、「軽運動室」（他施設の練習室に相当）のほか「会議室」の稼働率が低下しており、特に部屋数の多い「会議室」は供給が過剰傾向となっております。また、「茶道室」や「料理実習室」等の用途が限られる施設の稼働率は低い状況が続いています。

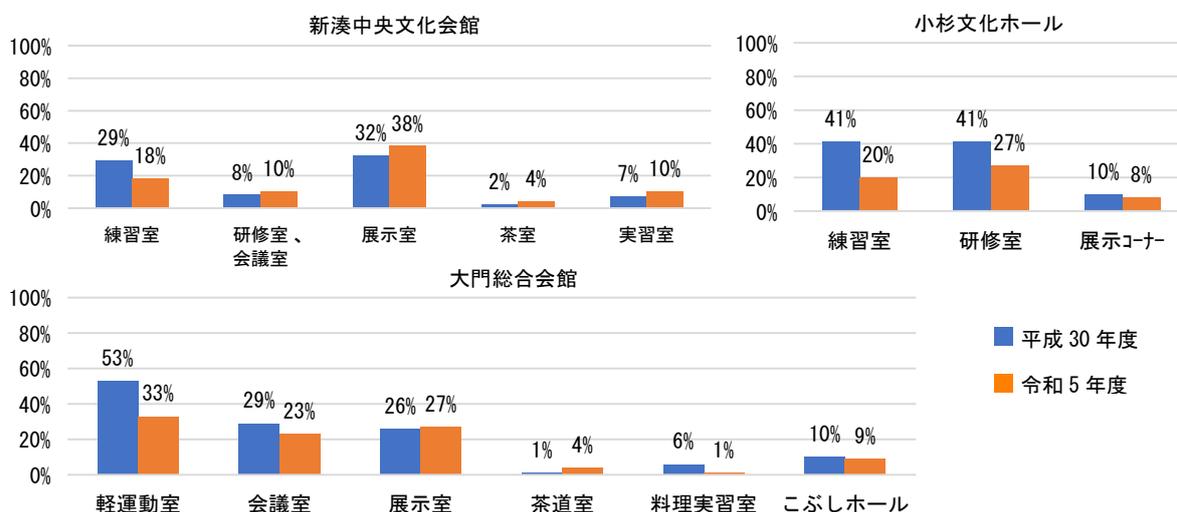


図10 ホール以外の施設の稼働率

⑪ 練習室、軽運動室での活動内容

新湊中央文化会館の練習室と大門総合会館の軽運動室は、ダンス等が可能な比較的広い部屋となっており、小杉文化ホールの練習室は、防音機能のある小規模スタジオとなっています。

いずれの施設も「練習会・文化教室」の利用が中心です。平成30年度に新湊中央文化会館と小杉文化ホールに一定数あった「研修・会議」は、令和5年度にはほとんど見られません。

いずれの施設も稼働率が低下していますが、民間事業者が主催する「練習会・文化教室」や「研修・会議」が減少したことによる影響が大きいものと推察されます。

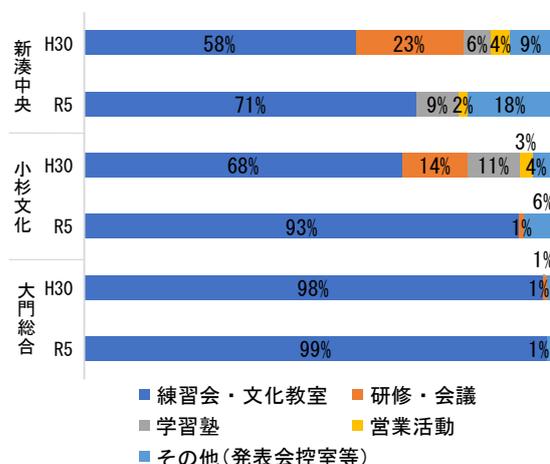


図11 練習室（軽運動室）の利用目的

## ⑫ 研修室、会議室での活動内容

研修室、会議室は、本来の目的である研修や会議のほか、音楽練習や学習塾、民間事業者のセミナー等、幅広く利用されています。

新湊中央文化会館の研修室等は、芸術文化団体等による「練習会・文化教室」や「研修・会議」が中心です。

小杉文化ホールの研修室は、令和5年度に「研修・会議」が大きく減少しています。令和元年度に近隣で公共施設が開館しており、その影響があるものと考えられます。

大門総合会館の会議室は、活動内容に関しては大きな変化は見られません。

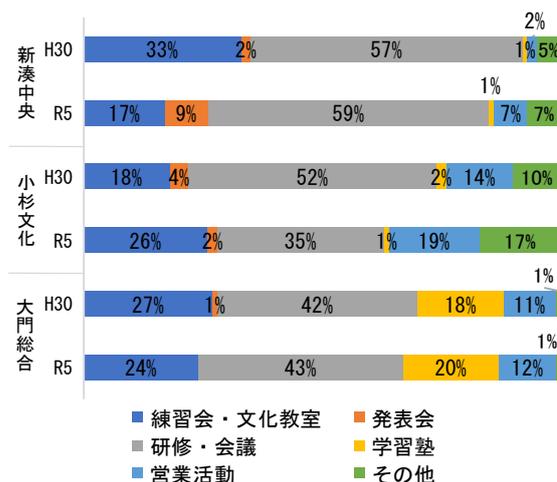


図12 研修室（会議室）の利用目的

## ⑬ 展示室での活動内容

新湊中央文化会館の展示室は、芸術文化団体による「展示発表会」と民間事業者の「営業活動」（展示即売会等）が中心です。

小杉文化ホールの展示コーナーは、令和5年度に「展示発表会」が減少し、「その他」（発表会控室等）の割合が増加しました。

大門総合会館の展示室は、主に民間事業者の「研修・会議」に利用されていましたが、令和5年度は大きく減少し、吹奏楽等の練習会が多くなっています。

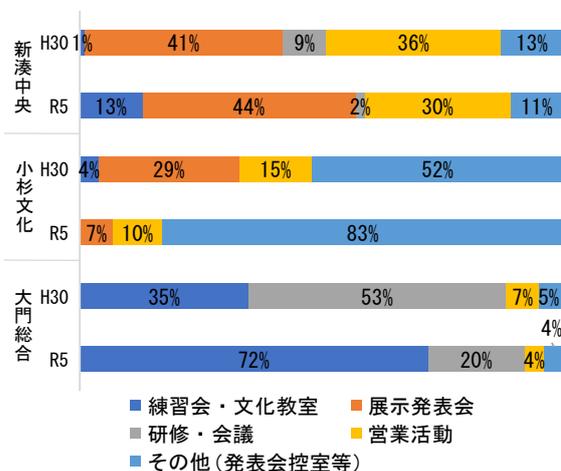


図13 展示室の利用目的

## 2 人流分析による来館者の傾向

施設の利用状況の参考として、KDDI Location Analyzer (KLA) によるスマートフォンのGPS位置情報データを活用した人流分析により、令和4（2022）年度における20歳以上の来館者（文化施設の利用者のほか図書館等の利用者を含む）の傾向を分析しました。

### ① リピーター率

1年間の来館者数について、訪れた回数ごとの来館者数を集計し、複数回訪れた来館者の割合（リピーター率）を推計しました。

リピーター率は、小杉文化ホールが22%、図書館と複合する新湊中央文化会館が30%、図書館のほか金融機関やフリースクール等と複合する大門総合会館が36%と、複合施設が高くなる傾向にあります。

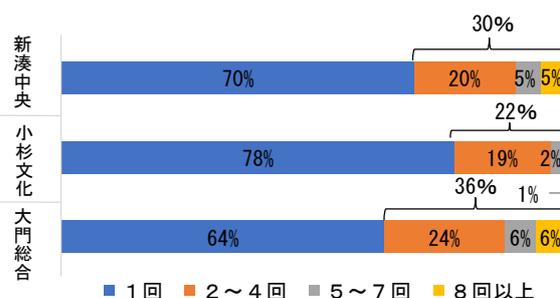


図14 1年間に来館した回数の割合

## ② 来館者の居住地等

来館者を市内の在住者、市外に在住し市内の事業所に勤務する者、市外の在住者に分類して集計しました。

新湊中央文化会館と大門総合会館の来館者は「市内在住者」と「市内勤務者」の合計で70%以上を占めることに対し、小杉文化ホールの来館者は「市外在住者」が多いことが特徴です。

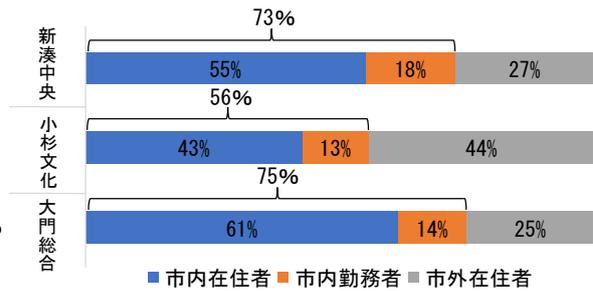


図 15 来館者の居住地等

## ③ 来館者の年代

20歳以上の来館者の年代を10歳ごとに区分し、集計しました。

いずれの施設も「60代」、「70歳以上」の割合が高く、若年層が低い傾向にあります。

小杉文化ホールは、他施設と比べ、「30代」、「40代」の割合が若干高いことが特徴です。

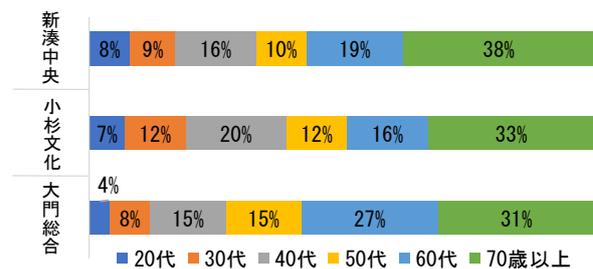


図 16 来館者の年代

## 資料2 大島絵本館の利用状況

### 1 利用状況の傾向

コロナ禍前の平成30年度とコロナ禍後の令和5年度の利用データから、大島絵本館の利用状況の傾向を確認しました。

#### ① 受託費収入を除く収入の内訳

受託費収入を除く収入は、令和5年度は平成30年度から概ね1割の減収となっています。両年度とも「入館料」より「ワークショップ」、「イベント」、「グッズ販売」といった事業収入の割合が高い傾向にあります。

「貸館」は、シアターホールをピアノ等の表現活動の発表の場として貸し出すもので、両年度とも年間25回の利用がありました。

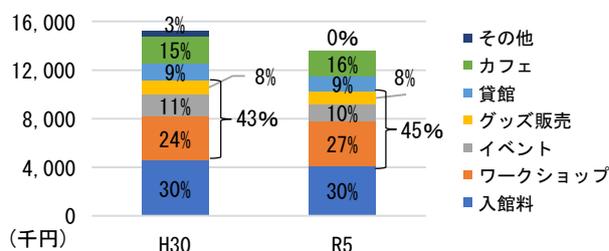


図17 受託費収入を除く収入の内訳

#### ② 入館者の内訳

令和5年度における入館者数は、平成30年度と比較し、約5千人の減少となっています。

両年度とも「個人利用」が約80%を占めており、個人利用者の動向が入館者数に大きく影響を与えています。

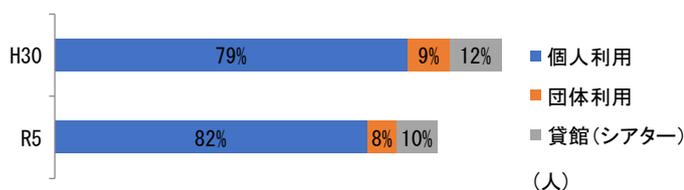


図18 入館者の内訳

#### ③ 個人利用の入館者の内訳

令和5年度における個人利用の入館者数は、平成30年度と比較し、約3千人の減少となっています。

このうち、市内在住の未就学児の保護者を無料にする「親子フリーパス」と富山県内に在住の祖父母を無料とする「孫とお出かけ支援事業」による入館者数はほとんど変化しておらず、一般利用である「当日券」のみが減少しています。

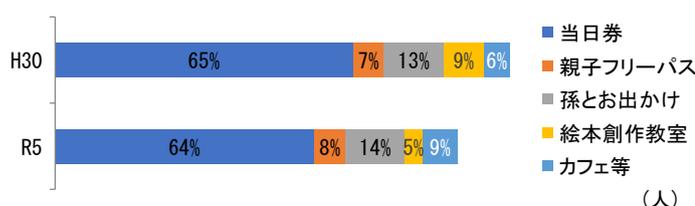


図19 個人利用の内訳

なお「絵本創作教室」は、コロナ禍以降、密を避けるため一回の参加人数を制限しており半減しています。「カフェ等」は、カフェ利用者及びカフェギャラリーの観覧者等です。

#### ④ 入館者の年齢区分

入館者の年齢区分は、「小中学生」、「未就学児」の合計と「大人」がほぼ均衡しており、子どもの引率で「大人」が来館することが多いと推測されます。

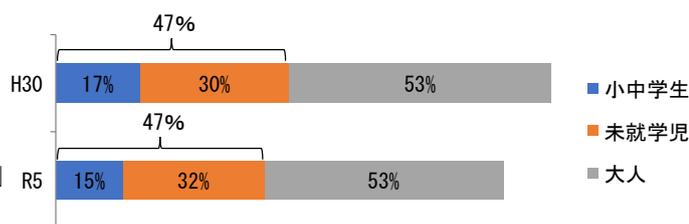


図20 入館者の年齢区分

### ⑤ 団体利用の内訳

団体利用は、市内外とも「幼稚園・保育園」の遠足によるものが多い状況です。市内では、地元の大島地区内の小学校や保育園が主に利用しています。平成30年度に比べ、令和5年度は市外の「幼稚園・保育園」の利用が減少しています。

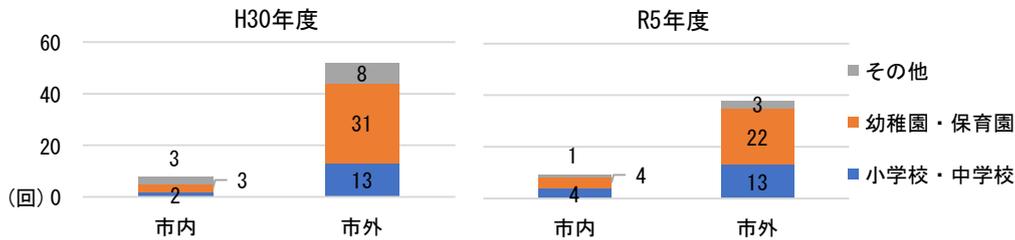


図 21 団体利用の内訳

## 2 人流分析による入館者の傾向

施設の利用状況の参考として、KDDI Location Analyzer (KLA) によるスマートフォンのGPS位置情報データを活用した人流分析により、令和4（2022）年度における20歳以上の入館者の状況を推計しました。

### ① リピーター率

1年間の入館者数を訪れた回数ごとに集計し、複数回訪れた入館者の割合（リピーター率）を推計しました。リピーター率は17%ですが、その半数以上が年間に3回以上訪れる熱心な方々です。

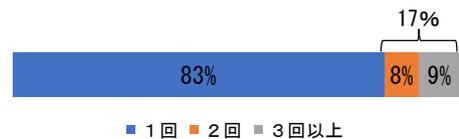


図 22 1年間に入館した回数の割合

### ② 入館者の居住地等

入館者の居住地等は、延べ人数と実人数（同じ人が何度入館しても1人と数える）で傾向が異なります。延べ人数では「市内勤務者」と「市外在住者」の合計が64%であることに対し、実人数では38%となっていることから、リピーターが「市内勤務者」と「市外在住者」に多いことを示しています。

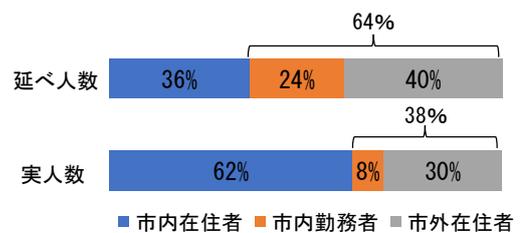


図 23 利用者の居住地等

### ③ 入館者の年代と性別

20歳未満を除く利用者の年代は、20～30代が31%、40～50代が35%、60代～70歳以上が34%と世代間での大きな差異は認められません。全体に女性利用者の割合が高い傾向にあり、最も入館者の多い50代は、ほとんどが女性の利用です。

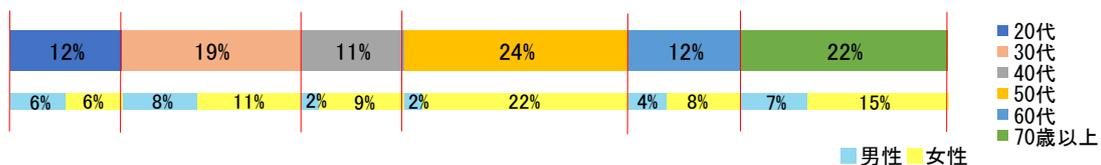


図 24 利用者の年代と性別

資料3 文化施設等における主な修繕工事等の経過

種別	施設	新湊中央文化会館			小杉文化ホール		
		年度	内容	金額 (千円)	年度	内容	金額 (千円)
躯体	屋根・屋上	H20	屋根防水	*	R5	ガラス屋根シール、排煙窓改修	10,538
	エントランス	H27	正面玄関車寄せ改修	8,186			
	外壁	H20	タイル貼替	*			
		R6	引違窓コーキング	2,024			
	内装	H20	床壁天井改修	*	R4	研修室窓改修	2,382
ホール設備	音響設備	H20	音響調整卓更新	*	H26	ホール調整卓、スピーカー改修	30,888
		H20	入力パッチ、スピーカ更新	*	R1	ひびきホールマイクシステム更新	3,564
		R5	大ホール音響調整卓改修	40,205	R2	まどかホールマイクシステム更新	3,614
					R5	ひびきホールパッチ盤改修	9,130
					R6	まどかホールパッチ盤改修	7,788
	照明設備	H20	調光操作卓、調光盤更新)	*	H26	ひびきホール調光装置改修	123,120
		R6	大ホールピンスポットライト更新	13,750			
		R6	ホール調光設備改修				
	舞台機構設備	H20	舞台機構改修	*	H29	ひびきホール時計更新	3,000
		H29	大ホール暗転幕更新	1,674	H28	まどかホール幕更新	4,936
		H30	大ホールボーダーケーブル更新	8,532			
		R1	大ホール大黒幕更新	1,980			
	機械設備	トイレ	H20	便器洋式化等(楽屋以外)	*	R2	小便器改修
空調設備		H20	附属施設空調個別化	*	R1	冷温水発生器、冷却塔、中央監視盤更新	115,456
		H26	空調用中央監視装置更新	54,000	R5	空調冷温水等循環ポンプ改修	2,955
		R2	冷温水発生機改修	11,528			
		R3	空調機ドレンパン更新等(ホワイエ)	6,451			
インターネット					R4	インターネット環境整備	2,497
エレベーター	H30	エレベーター制御装置改修	12,420				
高圧受電設備	H20	受電設備更新	*	H29	高圧ケーブル更新(西側駐車場整備で実施)		
防災設備	消防設備	H20	自動火災報知設備更新	*			
	非常放送用設備	H20	非常放送用アンプ更新	*			
	自家発電設備	H20	発電機オーバーホール	*	R4	燃料タンク更新	1,595
	非常用電源	H20	蓄電池設備更新	*	H30	非常電源蓄電池更新	3,672
	監視カメラ						
外構	外構	H26	駐車場外灯改修	4,266	H26	外構改修	2,020
					H29	西側駐車場整備	36,084

\* 大規模修繕工事による更新 1,413,300 千円(工事費合計)

種別	施設	大門総合会館			大島絵本館		
		年度	内容	金額 (千円)	年度	内容	金額 (千円)
躯体	屋根・屋上				H26	屋上屋根外壁改修	15,099
	エントランス						
	外壁				H24	外壁防水改修	1,827
	内装						
ホール設備	音響設備						
	照明設備						
	舞台機構設備						
機械設備	トイレ				R4	便器洋式化（1F男子）	1,076
					R5	便器洋式化（2F女子）	2,200
	空調設備	H20	冷温水発生機2号機更新	32,445			
		H20	冷却塔更新	2,520			
		H21	空調中央監視盤装置更新	4,410			
		R6	冷温水発生機2号機改修	2,750			
	インターネット	R4	インターネット環境整備	1,132			
	エレベーター					(エレベーター設備なし)	
高圧受電設備	R2	受電設備改修、高圧ケーブル更新	4,109	R6	高圧引込ケーブル更新	2,409	
防災設備	消防設備		排煙装置防煙スクリーン更新	1,101			
	非常放送用設備						
	自家発電設備					(自家発電設備なし)	
	非常用電源	R4	非常照明用蓄電池更新	2,959		(非常用電源なし)	
	監視カメラ	R4	監視カメラ設備更新	825			
外構	外構	R3	駐輪場更新	1,890			
		R6					

## 資料4 関係団体等の意見概要

### 1 射水市文化振興財団

#### 【文化ホール（新湊中央文化会館・小杉文化ホール）の役割について】

- ・文化ホールは、市民が主体となって活動（創造）や発表（交流）に参加する場であることが第一と考えており、その興味関心を引き出すため公演鑑賞を行っている。
- ・主催公演については、鑑賞者からは富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）のような規模で開催される公演を望まれ、市民が発表する場としての規模とは隔たりがある。市民活動を中心とする方向性もあるのではないか。
- ・文化ホールは、場所が良いから人が集まるものではなく、好きな人が求めて来館するものと思う。文化施設の配置により市内の人の動きを生み出すことを考えることも重要ではないか。

#### 【事業について】

- ・若い人がホールに足を向けたくなる仕掛けも必要である。
- ・バックステージツアーなどホールに親んでもらう事業も考えていくべきと考える。
- ・企業や団体等との連携を検討していく必要がある。
- ・参加型の事業を実施することにより、家族・知人など出演者との縁での来館があり、地元で愛される施設につながると考える。
- ・オペラ等の大規模な市民参加型事業のために外部から芸術監督等の人材を招いても継続的な活動にはつながらない。主体的に活動する実施団体があれば、サポートしたい。
- ・ワークショップを開催し、その成果を発表する事業を実施できればよいが、そのためにはマンパワーが必要である。職員が一か所に集まった方が活発な事業展開ができる。

#### 【施設の課題について】

- ・既存施設を使用していく場合は、空調設備の更新が必要である。
- ・蛍光灯・水銀灯等は製造が中止され、LEDへの変更が必要であるが、ホール客席は灯具や配線の更新が伴うため、特定天井の対応にも影響する。
- ・文化施設の機能の一部は、他施設の会議室や研修室等と重複している。
- ・全ての施設で駐車場が不足している。収容人数を考慮した駐車場が必要である。
- ・新しく人を呼ぶには環境を整える必要がある。若い人たち向けの利便性向上が重要。
- ・利用者の増加には、防音効果が高く、音楽やダンス等が可能な大小の部屋の充実が必要である。また、利用者が利用できる楽器保管庫があれば稼働も向上する。
- ・ホールは観覧者の利便性はもとより、発表者が利用しやすい環境も求められることから、楽屋等のバックヤードの老朽化も課題である。

#### 【施設運営について】

- ・有名アーティストの全国ツアー等の共催公演については、チケット収入が客席数の上限数によるため、新湊中央文化会館に偏る傾向にある。
- ・キャッシュレス決済、インターネットによるチケット購入サービス等の利用者サービスの拡充の検討が必要である。
- ・ホールには舞台管理運営業務に従事する技術者の常駐が必要であり、その難易度はホールの大きさによって変わる。
- ・指定管理業務の中でソフト事業を実施しているが、最近は光熱費の高騰等の影響で事業費を縮小せざるを得ない状況にある。

- ・中学校や高校部活動の吹奏楽の練習でホールの利用を希望されるが、部活動の練習としては利用者の費用負担が大きい。
- ・大門総合会館の大ホールは、照明・音響の操作や舞台管理業務を含む貸館ではなく、附属施設と同様の貸館のみの運用としたほうがよい。
- ・大門総合会館の月1回の休館日は時勢にあっておらず、週1回に変えられないか。

## 2 射水市絵本文化振興財団

### 【絵本館について】

- ・絵本文化は大島地域の特色ある文化として地域住民に認識され、誇りとされている。
- ・大島絵本館は、図書館的・児童館的な機能のほか、絵本を作るという面では文化施設としての側面も持つ。絵本館が核となって様々な施設がつながることは考えられる。

### 【事業について】

- ・開館当初から「0歳から100歳まで」という方針のもと事業を展開しているが、イベントがマンネリ化しており、コンテンツの更新が課題である。
- ・デジタルコンテンツ導入の研究やシアターホールの活用の検討が必要である。
- ・他の絵本専門館に比べ、ギャラリーの規模が小さく、絵本原画展の集客力が弱い。他館との連携による巡回展や原画展に対応したイベントの工夫が必要である。
- ・誰でも気軽に楽しめるサービスやコンテンツを取り入れ、利用者層の拡大を図りたい。
- ・ライブラリーで利用者に絵本の表紙を見せて配架したいが、現状のスペースでは難しい。
- ・出前で読み聞かせを行っており、読み聞かせを学ぼうとする人も増えている。

### 【施設の課題について】

- ・絵本館の施設は、世界的に評価される建築物であるが、老朽化しつつあり、特に空調設備の能力不足や故障の対応に苦慮している。
- ・エントランスが2階であるため、ベビーカーや高齢者が利用しやすいエレベーター等の設備が必要である。子育て世代にやさしい施設の最先端が絵本館であるべきである。
- ・会議室の増築など施設面積の拡大を希望する。

### 【施設運営について】

- ・市の子育て施策と連携し、地域の子どもたちが恩恵を受けられる取組が必要である。
- ・市民に向けたPRの強化が必要。SNSを活用した情報発信に積極的に取り組みたい。
- ・喫茶コーナーは採算が合わないため、運営に苦心している。飲料の提供の自動化や飲食可能なフリースペースとして活用することも検討したい。

## 3 射水市芸術文化協会

### 【芸術文化協会の活動について】

- ・芸術文化協会では、芸能フェスティバル・美術展・生け花展・茶会・盆栽展の開催や文芸集の発行により、市民が気軽に芸術文化を鑑賞、体験ができる機会の提供に努めている。
- ・各部門で子どもたちの体験事業に取り組んでいる。子どもたちが芸術に触れる機会の創出に積極的に取り組み、次世代の担い手を育成したい。

### 【活動の課題について】

- ・担い手の高齢化が進んでいる。子育て世代の参加が少なく、協会の運営に課題がある。
- ・物価高騰により様々な費用が増加しているため、協会運営に不安が生じている。

#### 4 射水市文化振興・文化施設等在り方検討委員（令和6年3月～4月）

##### 【文化振興について】

- ・子どもや若者たち、女性など、多様な市民の声を丁寧に反映した文化振興を期待したい。
- ・芸術文化協会の高齢化は大きな問題と考える。若い文化人は射水市にもたくさんいるが、芸術文化協会の活動に興味を示さないため、つながりが生まれにくい。
- ・多様性が叫ばれる中、アール・ブリュット（臨床美術）への応援や連携が重要と考える。

##### 【文化ホール（新湊中央文化会館・小杉文化ホール）の役割について】

- ・求められるクオリティは日々進み、芸術文化への触れ方も変化していくが、生のものを人々とともに鑑賞することは、大きな刺激や感動を体験でき、集う場所の必要性・重要性を感じる。
- ・個々の文化への興味は、環境が大いに関係するが、仕掛けや習得機会はどこにでもある。培われたものを表現するには、魅力的なつながりや発表の場が地元が必要と考える。
- ・活躍している若い人をしっかり把握し、その人達からニーズを求めることで、ホームとして感じてもらえる場に繋がるのではないか。
- ・常に新たな利用者の獲得を目指した発信を行い、新しい人たちも利用しやすい仕組み（運営コーディネータなど）を検討する必要があると考える。
- ・拠点が果たす役割もあり、利用者数や運営費だけではなく、人材の育成など成果の面にも目を向けることも重要である。また射水市は吹奏楽が盛んであり、社会人の吹奏楽楽団と部活動の地域移行など、新たな地域連携の結節点としての意義もある。

##### 【文化ホールの再編について】

- ・次世代のことを考えなければならない。10～15年後を見据える必要があると考える。
- ・目先の話ではなく、次の20年に向けた構想を検討すべき。施設の存廃の議論ではなく、原点に立ち返り、スポーツや商業なども含めた大きな市の図面を描くべきではないか。
- ・経年による老朽化、ニーズの変化、コスト増、受益と負担の収支バランスなどを鑑みると、現状のままでの維持は困難。機能を見極めた整理や集約が必要と考える。
- ・新湊中央文化会館と小杉文化ホールの集約によりスタッフも充実するのではないか。
- ・大島中央公園・庁舎周辺に文化施設を集約し、一体的なゾーンとすることで、大島絵本館を生かすことができると考える。

##### 【大門総合会館について】

- ・大ホールは、映像や現代アートの展示室への変更や高校演劇部などの裏方育成に利用することが考えられる。また、ホワイエは照明を増やせば明るい展示スペースとして利用できる。

##### 【大島絵本館について】

- ・入館料が高額に感じる。何度も通うには大人は負担に感じるため、年間パスポートが魅力的になる仕掛けが検討できないか。
- ・デジタル絵本に取り組むべき。蔵書のデジタル化や難しい仕掛け、高価な設備は必要なく、安価に対応できるアトラクション程度から始めればよいと考える。
- ・ライブラリーでは、大きなモニターで蔵書の表紙を見ながらタッチパネル検索できればよいと考える。